

ハイデルベルク信仰問答より

問 77 信ずる者たちが、裂かれたパンを食し、杯を飲むと同じほどの確かさで、主のからだ
と血をもって、信じる者を養い、育てると、キリストはどこで約束なされたのですか。

答え 聖晩餐を設定する時であります。それは次のように言われています。「渡される夜、イエスはパンをとり、感謝を捧げてからこれをさき、そして言われた。『これはあなたがたのための私のからだである。私を記念してこのように行ないなさい』。同じようにして杯をもとり、食事のあとに言われた。『この杯は、私の血による新しき契約である。あなたがたはこれを飲むたびに、再び来られる時まで、主の死を告げ知らせるのである』（Iコリント 11:23-28)。この約束は、使徒パウロによって繰り返されている。すなわち、私たちが祝福の杯を祝福するとき、それはキリストの血にあずかることを意味してはいないか。私たちがパンをさくとき、それはキリストの体にあずかることを意味してはいないか。私たちが多くいてもパンは一つであるから、私たちは一つの体である。なぜなら、私たちすべての者は、一つのパンをいただくからである（Iコリント 10:16-17)。

問いの中で、聖餐式は「信じる者を養い、育てる」と言われています。私たちのどこが養われるのでしょうか。ここではもちろん、肉体的なことではなく、霊的なことが言われていると思われま。私たちの信仰が成長し、主イエスとの関係が前進するのです。その根拠となる聖句はどこですかと、質問者は聞いているのです。

色を付けた部分はその聖句になりますが、これは聖餐式のときに必ず朗読される箇所です。福音書ではなくパウロ書簡の中にこれが記録されているところに、早い時期からこれが教会内で聖餐式の式文として用いられていたことが窺われます。パウロ書簡は福音書よりも先に書かれた文書だからです。

ここでは聖句そのものより、解説に注目してみましょう。その内容は三つに集約されています。

① 私たちが祝福の杯を祝福するとき、それはキリストの血にあずかることを意味してはいないか。

なぜか「パン」に先立って「杯」について説明されています。この順序逆転の意図はよく分かりませんが、「新しい契約」「主の死」という意味を優先的に伝えようとしているのかもしれませんが。「ぶどう酒」とは「祝福の杯」。それを飲むときに信者たちは祝福を受ける。「私たちが…祝福する」と言われているように、陪餐者全員でこの杯を祝福し、感謝をもって分かち合うのです。

② 私たちがパンをさくとき、それはキリストの体にあずかることを意味してはいないか。

「パンを裂く」のは原則的に司式者ですが、ここには「裂く」だけでなく「配られる」「全員が受け取る」という意味も含まれていると思われます。以前にこんなことがありました。たまたま礼拝出席者が予想以上に多かったため、用意してあったパンとぶどうジュースでは足りなくなってしまったのです。そのとき、足りない分は分餐しなかったのではなく、小さなパンを更に半分に裂いて隣の人に渡していただきました。これはおそらく「五千人の給食」の場面と似た光景だったのではないかと想像しています。主のからだは、それを求める人に洩れなく与えられるはずなのです。

③ 私たちが多くいてもパンは一つであるから、私たちは一つの体である。なぜなら、私たちすべての者は、一つのパンをいただくからである。

最後に、聖餐式は一つの主のからだに私たち全員が属していることを表しているという真理が伝えられています。教会に連なる信者一人ひとりが、主のからだの部分として重要な存在なのです。主イエスは、隣人をそのように見るようにと教えておられます。

ある教団の年次総会は毎回大荒れになるそうですが、それは多くの問題を抱えた罪人の集まりであるから致し方ないことなのかもしれません。人が多くなればなるほど問題もまた増えるものです。その総会の最後には必ず聖餐式が持たれるそうです。それによって、この教団が「人間的な集まり」ではなく、主イエスのからだ（霊的な集まり）であることを思い起こしているのでしょう。多くの問題を抱える私たちを一致させる力、それは聖霊にほかなりませんが、全員がこの聖霊を宿していることを確認するのが聖餐式であります。